



News Release

2020年1月20日

株式会社九州フィナンシャルグループ

2020年 社長年頭挨拶

記

株式会社九州フィナンシャルグループ（社長 笠原 慶久）は、年頭挨拶を、社長から全社員に向け次のとおりメッセージを送りました。

目次

1. KFGのビジネスモデルを確立する年
 2. 組織風土としての行動指針を定着させる年
 3. 失敗を恐れず、機敏に行動する年
- 結びに

【本件に関するお問い合わせ】

九州フィナンシャルグループ 広報・IR部 小西

TEL : 096-326-5607

笠原です。九州フィナンシャルグループの皆さん、新年明けましておめでとうございます。持株会社であるKFGの皆さんに、年頭にあたり特に申し上げたいことを3点述べます。

1. KFGのビジネスモデルを確立する

まず、1つ目は、「KFGのビジネスモデルを確立する年」にしたいという事です。今年は、「融合ステージ」の最終年にあたり、秋には統合5周年を迎えます。

熊本と鹿児島 of 健全なトップバンクが統合してできたKFGは、傘下銀行が自主独立し、現場に近くなればなるほど主体的に力を発揮するこれまでに例のない金融グループにしたい、そして同時に、一つの上場企業グループとして、経営理念という太い幹を持ち、内部統制が効き、また、規模の経済による高い専門性と効率性を誇る金融グループにしたい、と考え、議論を深めてきました。これは、分散と集中のバランスを取っていくということで、方向性は、皆さんも共有してくれているはずです。問題は、これを具体化していくことであり、具体化する力が、今年は問われるのです。激動の経営環境の中、時間が潤沢にあるわけではなく、スピードが重要です。グループとしての経営効率や専門性を高めながら、経営資源を今まで以上にお客様や地域のために振り向けていく、更に子銀行の独立性を尊重し、圧倒的に地域密着度を高めていく、「分権型でありながら統制の効いた」力強いKFGのビジネスモデルを、今年、確立する年にしたい、ということでもあります。

当社のシンボルマークである「大樹」は、多くの幹や葉を持ち、枝はそれぞれ広がり、勢いがあります。同時に、太い幹は一つであり、全体としても一つの大木になって力強くそびえています。このような、KFGという大樹を作っていきたいのです。

成否は、KFGの皆さんの頑張りにかかっています。

2. 組織風土としての行動指針の定着

そして2つ目は、「組織風土として、行動指針を定着させる年」にしたいということです。私は、4つの行動指針について、繰り返し説明してきました。それは、

- ① 「自ら考え、行動する」という主体性。指示待ちではなく、自分で考えるということ。
- ② 「未来、即ち次世代に向かって考える」。今の自分の為ではなく、未来の世代のために、今頑張るということ。
- ③ 「九州フィナンシャルグループのフィールドで考える」。派閥主義ではなく、KFGベースの考え方ということ。そして、

- ④ 「多様性の尊重」。自分とは違う考え方や、文化、やり方を、積極的に受け入れようということ。

この4つの行動指針は、簡単なようで意識しないと難しいものです。そして、これらは相互に関連しています。象徴的にいうと、各子銀行出身者は、自分の出身銀行の文化や、やり方ではなく、もう一方の銀行の文化や、やり方に合わせられないのかを考え、KFGの未来に一番良いものを取り入れていくことが重要だ、ということです。我田引水ではなく、未来のKFGのために、本当に良いものを、合理的に選択していこうという考えです。これをKFGの皆さんが共有し、子銀行にも広めていく一年にしてほしいのです。

3. 失敗を恐れず、機敏に行動する

3つ目は、ねずみ年ですので、「失敗を恐れず、機敏に行動する年」にしたいということです。私は、昨年のニッキンの寸言で、「アジリティの力」という題で、直線的な速さを問う「スピード」に対して、どこに動くかを含め、機敏に方向を見極め、動き回る「アジリティ」が重要になると書きました。すばしっこく動くねずみに倣い、皆さん、今年は、失敗を恐れずに、機敏に行動する年、そしてもし失敗した場合は、機敏に方向を変えるという風にしたいと思っています。

● 結びに

以上、KFGとして、今年は、「KFGのビジネスモデルを確立する年」、「組織風土として行動指針を定着させる年」「失敗を恐れず、機敏に行動する年」の3つです。このことを通じ、外から見ても、内から見ても、魅力ある素晴らしいKFGグループにしていきたいと思っています。

KFGの仕事は簡単ではありません。しかし、未来のKFGのために、皆さんの役割は重要です。本年も、九州フィナンシャルグループという大きなフィールドの中で、グループ一丸となって頑張っていきましょう。

以 上